

## 2011年度 東京蜘蛛談話会 5月総会例会

1. 日時 2011年5月8日(日) 10時より(開場9時30分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒150-0011 東京都渋谷区東 2-5-3  
「JR 渋谷駅」東口(東急文化会館側)より、「学 03 日赤医療センター行」バスにて約5分、「國學院大學前」下車，徒歩1分，170円
3. 連絡 当日は，東京環境工科専門学校の電話が使用できないので，緊急時には以下に連絡ください．加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 プロジェクター，OHP 等用意いたします．
5. 講演をご希望の方は，演題と使用希望機材  
(スライド，OHP，コンピュータ)  
を事務局初芝までお知らせください．  
〒186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203 有限会社エコシス 初芝伸吾  
mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp  
Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

渋谷駅東口から徒歩 15 分です．坂道がありますので，バスを利用した方がよろしいか  
と思います．

東京環境工科専門学校及びその周辺には駐車場ありません．



東京環境工科専門学校

### 東京蜘蛛談話会 2010 年度採集観察会

1. 期 日： 第 4 回 2 月 13 日 (日)
2. 場 所： 東京理科大学 理想会記念自然公園
3. 集 合： 東武野田線「運河」駅改札前 午前 10:00
4. 世話人： 八幡明彦

### 東京蜘蛛談話会 2011 年度採集観察会

1. 期 日： 第 1 回 5 月 15 日 (日) 第 2 回 7 月 10 日 (日)  
第 3 回 10 月 9 日 (日) 第 4 回 2 月 12 日 (日)
2. 場 所： 八王子城址
3. 集 合： JR 高尾駅北口 10 時集合
4. 世話人： 初芝伸吾・甲野 涼

京王バスで壺園前下車，20～30 分程度で現地に着きます（以前の横沢入りまでの徒歩と同じくらいの距離です）．歩くのが面倒な方は，タクシー（相乗り）で行くことも可能だと思います．連絡先初芝携帯 090-6156-8378

### 東京蜘蛛談話会 2011 年度合宿について

東京蜘蛛談話会 2011 年合宿を以下のように栃木県茂木町で計画しています．

場 所： ツインリンクもてぎ内ハローウッズ

栃木県芳賀郡茂木町桧山 120-1

0285-64-0155

日 程： 未定 [ 7 月 16 日 (土) から 19 日 (火) のうちの 2 泊 3 日 ]

世話人： 加藤輝代子

ここは，ホンダのサーキット場がある場所の脇にある 640ha の森のなかで，主に子供達の遊び場の 42ha がハローウッズです．宿泊はツインリンク内のホテルです．朝食付で少し高めですが，ものすごく快適です．

元気な若者であれば，キャンプも可能です．多くの皆さんの参加をお待ちしています．

計画の詳細や参加申し込みについては談話会通信次号にてご案内いたします．

# 東京蜘蛛談話会例会

2010年12月5日 東京環境工科専門学校にて

## 参加者一同



## 講演

(1) 稲を守る8本足の益虫

田中一樹



(2) 新「クモ基本50」

池田博明



(3) 南西諸島における *Evarcha* 属ハエトリグモの分類学的研究 (途中報告)

須黒達巳



(4) 追いかけてイソコモリグモ 砂浜めぐり 4000kmの旅

谷川明男・新海 明



(5) 顕微鏡で見たクサグモの脱皮行動

本多佳子



(6) アリグモの恐怖

荘司康治郎



(7) 沖縄島久米島日記 2010

谷川明男



(8) サカグチの飼育続報とワクワドキドキグモの飼育

張替智行



(9) 飼育下のワクワドキジグモの映像

張替智行



クモが出てくる子どもの本情報 (5)

今のうちに買っておこう！  
1970-80年代に出版された絵本4点の紹介

萩野 康則

池田博明さんが管理運営してくださっている、談話会のウェブサイト中に「児童書絶版を怒る」<<http://www.asahi-net.or.jp/~se7s-ikd/tsschildbook.htm>>というページがある。そこで池田さんご自身が怒り、嘆かれているように、日本の児童書は初版印刷分が完売しても、増刷せずに品切れになってしまうものが実に多い。もちろんクモ関係のものも例外ではなく、ひどい場合になるとわずか2、3年で品切れになってしまうこともある。発行から10年経っていたら、まず新刊書として入手できないと思った方がよい。そのような状況下、10年、20年、30年と、売り続けられているものが、わずかながらある。しかしこれらの本もいつ品切れになるかわからない。買うなら今！である。

今回は1970年代から80年代に出版された絵本3点と読みもの1点を紹介させて頂く。4点とも2010年12月20日現在、出版社に在庫があることを確認している。

J. ワグナー(文)・R. ブルックス(絵)・大岡 信(訳)「アラネア - あるクモのぼうけん - 」

B5 変横判/36pp. 岩波書店 1979年2月発行 ISBN978-4-00-110583-4 本体1,200円

ニワオニグモがモデルと思しきクモのアラネアが、糸を出して空に飛び立つ。一日風に



まかせて飛んで、ある家の庭のリラの茂みに到着した。夜になると網を張り、朝になると網をたたむ。毎日その繰り返しでアラネアは人目につくことがない。朝早く、登校途中のいたずら小僧や、洗濯物を干す奥さんたちに網を見つげられることはあっても、アラネアを見た者は誰もいなかった。夏の終わりのある日、ひどい嵐がやってきた。雨にたたかれ地面に落ち、アラネアはなす術もなく水に流される。やがて家の裏口の石段にたどり着き、戸口のすき間から家の中に入る。明るい部屋を急いで横切り、暗がりを見つけて身を

潜める。次の日、庭に出てリラの茂みを見つけ、また網を張り始める。

エッチングのような黒一色のペン画が素晴らしい。点は使わずに線のみで描いているが、線の粗密を巧みに使い分け、網を白く浮かび上がらせている場面などは実に効果的である。シンプルなストーリーにモノトーンの絵が調和して、いつの間にかアラネアに感情移入してしまい、溺れている彼女に「頑張れ！」と声を掛けたくなる。

文のジェニー・ワグナーはイギリス生まれのオーストラリアの作家。主婦であった彼女は、子どもたちが大きくなってから大学に入り直して他国語を習得した。初めての著書はオランダ語とドイツ語だったという。代表作に本書と同じワグナー＋ブルックス＋大岡のトリオによる「まっくろけのまよなかネコよおはいり」（岩波書店、1978年）がある。

絵のロン・ブルックスはタスマニア島在住の画家。本書は黒一色のペン画だが、「まっくろけの～」ほか3作ではペン画に淡い水彩の色を載せている。どうやらペン画＋水彩が基本的な画風ようだ。しかし産経児童出版文化賞推薦の「キツネ」（M. ワイルド文、寺田襄訳、BL出版、2001年）では荒々しいタッチの厚塗りの油彩だし、「くまさんとことりちゃん」（U. デュボサルススキー文、今江祥智訳、BL出版、2003年）では一転して鉛筆に水彩の、ほのぼのとした優しい絵を描いている。

訳者の大岡信さんは、今さら説明するまでもなく、朝日新聞に長年連載された「折々のうた」で名高い、日本を代表する詩人で、菊池寛賞や芸術選奨文部大臣賞など、多くの賞を受賞されている。詩作の他に評論、翻訳も手がけ、また美術家や音楽家と共作をするなど、幅広い分野で活躍されている方である。

クモの絵本を、あの大岡信が翻訳して、しかも岩波書店から出版されているなんて、ちょっと意外である。是非ご一読を。



新宮 晋（作）「くも」

A4 変判/40pp. 文化出版局 1979 年 6 月発行 ISBN978-4-579-40112-3 本体  
1,456 円



前書の 4 箇月後に出版された本書も、期せずしてクモの網を大きく取り上げた絵本である。表紙が黒地に白で網が描かれたところに、黄色系の文字を配置している点も共通している。

ある夏の夕方から夜明けまでの 1 頭のオニグモの行動を、文字は全く使わずに（正確には、ごく短い文章だけを印刷したページが、最初と最後に 1 ページずつある）、絵だけでドキュメンタリー・タッチに描いている。

最初、青空をバックにクモが糸に吊り下がっている。夕刻が近づき、空に黄色味がさしてきたころ、橋糸を張るためにおしりから糸を出して飛ばす。空がオレンジ色に染まるころには、Y 字型の網の骨組みが作られ、クモはその上で糸をつむいでいた。空の色に赤みが増し、さらに青みが増して暗くなるにつれて、縦糸を張り、足場糸を張り、横糸を張る。空に星が瞬き出すころ、網は完成し、クモはこしき中央に陣取った。やがてヒトリガが飛んできて網に掛かり、クモはラッピングをして食べる。夜が更け、網には露のしずくが付き、真珠のネックレスのようになる。やがて大風が吹き、網は壊れてしまうが、クモは網の真ん中で頑張る。空が白みはじめ、クモは網を回収する。やがてクモは橋糸を渡り、ねぐらへと消えていく。

クモの行動と、時間の経過にともなう網の変化を、実に正確に描いている。特に表紙の網の絵など、船曳さんの網標本かと思紛うほどリアルである。時の移ろいを空の色の変化で表しているのだが、その色が実にきれいである。また、トレーシングペーパーに印刷されているページが多数あり、これが下のページの色と重なって、面白い効果を出している。

作者の新宮晋（しんぐう すすむ）さんは彫刻家で、特に風や水で動く彫刻では世界的な方である。日本芸術大賞や現代日本彫刻展大賞など、多くの賞を受賞されている。絵本もたくさん描かれていて、代表作に「いちご」（文化出版局、1975 年）、「じんべえざめ」（扶桑社、1991 年）、「風の星」（福音館書店、2004 年）などがある。

内容が正確なこと、絵が素晴らしいことで、クモ屋なら絶対買い、とお薦めしたい本である。

征矢 清（作）・太田 大八（絵）大日本ようねん文庫「くもの巣とり」

B5 変判/32pp. 大日本図書 1984 年 10 月発行 ISBN978-4-477-16872-2 本体  
1,300 円



冒頭で、どこの学校にも「ふしぎなもの」が必ず住みついている、と切り出して、幼い読者の心を引きつけておいてから、本題に入っていく。

ある山のふもとの学校に、「くもの巣とり」という、背の高い男の人のような「ふしぎなもの」が住んでいた。昼間は校長室の戸棚に隠れているのだが、夜になると出てきて、学校中のクモの網を取って歩くのである。校長室の天井の隅に、ちびぐもが網を張っていた。くもの巣とりはちびぐもに、ここには虫は捕れないから外に出た方がよい、と諭して外のカエデの木に移し、それから網を払った。次に1年生の教室に行くと、昨日言い聞かせて外に出したはずのくも太郎がまた網を張っている。聞いてみると教室には子

どもたちがいて騒いでくれるが外は寂しい、だから戻ってきたという。さてどうしたものか、くもの巣とりの思案が始まる...

作者の征矢清（そや きよし）さんは、福音館書店で子ども向け雑誌の編集を担当した後、児童文学作家となり、童話・絵本を数多く手掛けている。童話作品としては「かおるのたからもの」（大社玲子絵、あかね書房、1972年）や野間児童文芸賞と新美南吉児童文学賞を受賞の「ガラスのうま」（林明子絵、偕成社、2001年）など、絵本としては「かさもっておむかえ」（長新太絵、福音館書店、1977年）や「はっぱのおうち」（林明子絵、福音館書店、1989年）などがある。

絵の太田大八さんは、多数の創作絵本や児童書の挿絵を手掛けている絵本作家・画家で、1918年のお生まれ。93歳になられる今も現役で活躍されている、日本児童文学界の長老である。創作絵本に絵本にっぽん賞受賞の「だいちゃんとうみ」（福音館書店、1992年）、「かさ」（文研出版、2005年）など、挿絵作品に赤い鳥さし絵賞受賞の「見えない絵本」（長谷川集平作、理論社、1989年）、産経児童出版文化賞受賞の「絵本西遊記」（呉承恩作、周鋭編、中由美子訳、童心社、1997年）などがある。

E. カール(作)・もり ひさし(訳)「くもさんおへんじどうしたの」

A4 変横判/24pp. 偕成社 1985 年 11 月発行 ISBN978-4-03-328270-1 本体  
2,400 円



ある朝、農場の柵にやってきたクモが、網を張り始める。馬、牛、羊、山羊、豚、犬、猫、あひるが次々にやって来るが、網を張るのに大忙しで、誰が話し掛けても返事もしない。ようやく網ができあがるが、すぐにハエがかかり、食べるのに忙しくて、おんどりが声を掛けても返事をしない。そして夜、ふくろうが尋ねてもクモは眠ってしまっていて、返事をしない。

ストーリーはごく単純だが、色とりどりに彩色した薄い紙を切り抜いて貼り付けて作られた絵は、実に鮮やかで美しい。さらに本作ではクモの糸と体の一部分、更には全画面に登場する準主人公のハエの体の一部が特殊な塗料で盛り上げられていて、手で触っても楽しめるようになっている。

作者のエリック・カールは、そのコラージュによる独特の作風で世界的に著名な絵本作家。1968 年発表の「1, 2, 3 どうぶつえんへ」(日本語版は偕成社, 1970 年)でポローニャ国際児童図書展グラフィック大賞を受賞して以来、多くの絵本を発表し、代表作「はらぺこあおむし」(もりひさし訳, 偕成社, 1976 年)は 33 カ国語に訳され、各国で賞を取っている。また、音の出る絵本である「だんまり こおろぎ」(くどうなおこ訳, 偕成社, 1990 年)や、光る絵本の「さびしがりやの ほたる」(もりひさし訳, 偕成社, 1996 年)など、ユニークな仕掛け絵本も世に送っている。

訳者のもりひさし(森比左志)さんは、小学校教員をしながら海外の児童文学の翻訳を始めた方で、一連のエリック・カール作品(偕成社)のほか、「くまのアーネストおじさん」シリーズ(ガブリエル・バンサン作, BL 出版)など、多数の作品を訳している。また、ご自身で児童文学作品も書かれていて、代表作に「こぐまちゃん」シリーズ(わだよしおみと共著, わかやまけん絵, こぐま社)や、「つきがみていたはなし」(菊池俊治絵, こぐま社, 1987 年)などがある。

余談になるが、もりさんの訳書に「どのあしがさき? くもとむかでのおはなし」(ほそのあやこ作, M. グレイニエツ絵, 1999 年, すずき出版)というものもある。クモと多足類が出てくる絵本で、まさに私が紹介記事を書きたい本なのだが、私が入手した 2007 年には既に品切れだった。新刊として入手できない本は紹介しないことにしているので、この本も取り上げられないでいる。冒頭に記した日本の児童書はすぐに品切れになってしまうことの、一つの事例である。



## 久留里沿線にイエオニグモの網を求めて

新海 明

「クモの巣図鑑」を作ろうという計画が持ち上がった。身近に普通に見られるクモは、ある程度なら「巣」だけでも見分けられる。種の同定までは不可能だが、初心者が「クモをかじり始める」きっかけぐらいにはなりそうだ。

掲載するのは、ジョロウグモ・ゴミグモ・オニグモ・クサグモ・ジグモ・ヒラタグモなどなど、そんじょそこらで見られる「ド」普通種だ。どこでも見られる・・・モノでなければ「この本」の趣旨に反してしまう。ところが、意外にも発見、そして網の撮影に苦戦してしまったのが「イエオニグモ」だった。私の頭の中には「イエオニなら、人家や近所の公園の照明の周り、そこがダメなら駅の構内の灯火を見まわれば、すぐに見つかる」という思いがあった。何しろ、かつて近藤昭夫先生らによる放射線照射の実験用に、東京近郊の駅で 388 頭ものイエオニグモが集められたとの報告があったし(AT 73)、私自身の日常的な経験に基づいた感想でもあった。

「意外」の始まりは拙宅の最寄り駅である多摩都市モノレール「中大明星」駅だった。帰宅時に良く見かけていたイエオニを撮るために、谷川さんと夜の駅舎に出かけた。しかし、いたのはズグロオニグモばかりだったのだ。そこで翌週、今度は房総半島の中央を走るローカル線の久留里沿線の駅舎に狙いをつけた。ほとんどが無人駅で乗降客も少なく、夜の駅舎はわれわれの思いのままに使える。最初は終点の上総亀山駅だ。ここには確かにイエオニグモがいた。ひとつはトイレの壁に、もうひとつは窓際に網を張っていた。でも、写真を撮るにはバックが白すぎたり、照明が反対側から入ったりで望ましい状態ではなかったのだ。ならば、もっと小汚く仄暗く、なおかつ駅員のいない駅がある。私の頭のひらめいたのは平山駅だった。ところが到着してびっくりだった。暗くて駅員がいないのは昔のままだったが、駅舎とくにトイレが新設されてきれいになっているではないか。「この環境」は予想に反していた・・・が、丸い網を張っているクモはたくさんいた。けれども、ズグロばかりだ。ここではイエオニは1頭も見つけれなかった。仕方がない、今度は俵田駅に向かった。駅の様子は久留里線沿線どこも似たり寄ったりだった。ここは円網が少なく、かつオニグモばかりだ。さらに移動し、木更津に近い東横田駅もズグロとオニグモばかりだった。駅舎にはイエオニが優占していると信じた私たちが馬鹿だったのか。発想を変えて県道沿いの自販機周辺も探したのだが、ここもズグロに占有されていた。「イエオニ探し」がこのように苦戦するとは予想だにできなかった。近藤先生らによって行われた調査から 34 年。はてさて、イエオニグモの多くが関東地方の駅舎から消えてしまったのだろうか。あるいは、私たちが探し回った駅舎だけが、たまたま「いなかった」だけなのだろうか。皆さんの周りの駅での状況や、イエオニグモの多寡を教えていただけたら幸いである。

[ 誌上作品展 ]



「走りグモ」

八幡秋山沙和作

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 3800 円、学生 2000 円です。

郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。

会費のことは：会計担当 安田明雄 〒231-0861 横浜市中区元町 5-219

TEL：045-641-0763 E-mail：kobato@gol.com

通信原稿投稿先：谷川明男 247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail：dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

通信の原稿締め切りは、4月総会まで、8月末、12月末です。

KISHIDAIA 原稿投稿先：池田博明 258-0018 足柄上郡大井町金手 1099

E-mail：fwgd9084@mb.infoweb.ne.jp

キシダイアの原稿締め切りは、6月末日と12月末日です。













